

2008 年度

<p>科目名</p> <p style="text-align: center;">生理解剖学 A</p>	<p>対象学科・学年</p> <p style="text-align: center;">人間社 1 回生</p>	<p>担当者</p> <p style="text-align: center;">片山 洋子</p>
<p>授業テーマ</p> <p style="text-align: center;">骨と筋の機能解剖学を展開</p>		
<p>授業の概要と目標</p> <p>身体の機能を知るためには、構造の理解が必要であり、その相互の関係について講義する。身体の構造と機能はスポーツ指導者や保健体育教員に必須の基礎知識である。スポーツ生理学やスポーツバイオメカニクス、スポーツ生化学などに発展する。前期のみの履修ではなく、A・B両方を学ぶことを勧めたい。前期は主に骨格の機能解剖と筋の生理学を中心に扱う。後期は呼吸と循環器系、脳や神経系、免疫系、それに消化と吸収がそのテーマとなる。</p>		
<p>評価方法</p> <p>出席状況と試験で評価 試験は前半と後半で 2 回実施し総合評価する</p>		
<p>テキスト</p> <p>健康運動指導士養成講習会テキスト</p>	<p>著者</p> <p>健康・体力づくり事業財団</p>	<p>出版社</p> <p>社会保険研究所</p>
<p>参考書</p> <p>図解 栄養生理学・生化学 解剖生理学</p>	<p>著者</p> <p>片山真之・片山洋子 片山洋子編</p>	<p>出版社</p> <p>産業図書 朝倉書店</p>
<p>授業スケジュール・内容</p> <p>前期：骨と筋の機能解剖学を中心に</p> <ol style="list-style-type: none"> 1：全身の骨格と主な名称 2：頭頸部の関節運動① 頭蓋骨、頸椎、環軸椎関節、項靭帯、棘間靭帯の機能解剖 3：頭頸部の関節運動② 肩甲帯の機能解剖 4：上肢の関節運動① 肩関節の構造と運動 5：上肢の関節運動② 肘関節、手、手関節の構造と運動 6：脊柱と胸郭の運動① 脊柱の力学的構造、胸郭の形態と機能 7：脊柱と胸郭の運動② 腰椎の力学的構造、胸郭・骨盤連結の筋群、第 5 腰椎と仙骨間の荷重負荷 8：骨盤と下肢の運動① 骨盤の連結構造、股関節の形態、股関節連結強化の靭帯群、股関節付着の筋群 8：骨盤と下肢の運動② 膝関節の構造、半月板、側副靭帯、前十字靭帯、 9：骨盤と下肢の運動③ 膝関節筋群とその働き、足関節の構造、大腿四頭筋の働き 10：試験① 骨格を対象とした範囲で 11：骨格筋系① 骨格筋の働き、骨格筋の形状と特性、骨格筋の階層構造、 12：骨格筋系② 筋線維の微細形態、筋収縮のメカニズム 13：骨格筋系③ 興奮—収縮連関、単収縮と強縮、筋の神経支配 14：骨格筋系④ 筋線維タイプ 15：試験② 骨格筋を対象とした範囲で 		